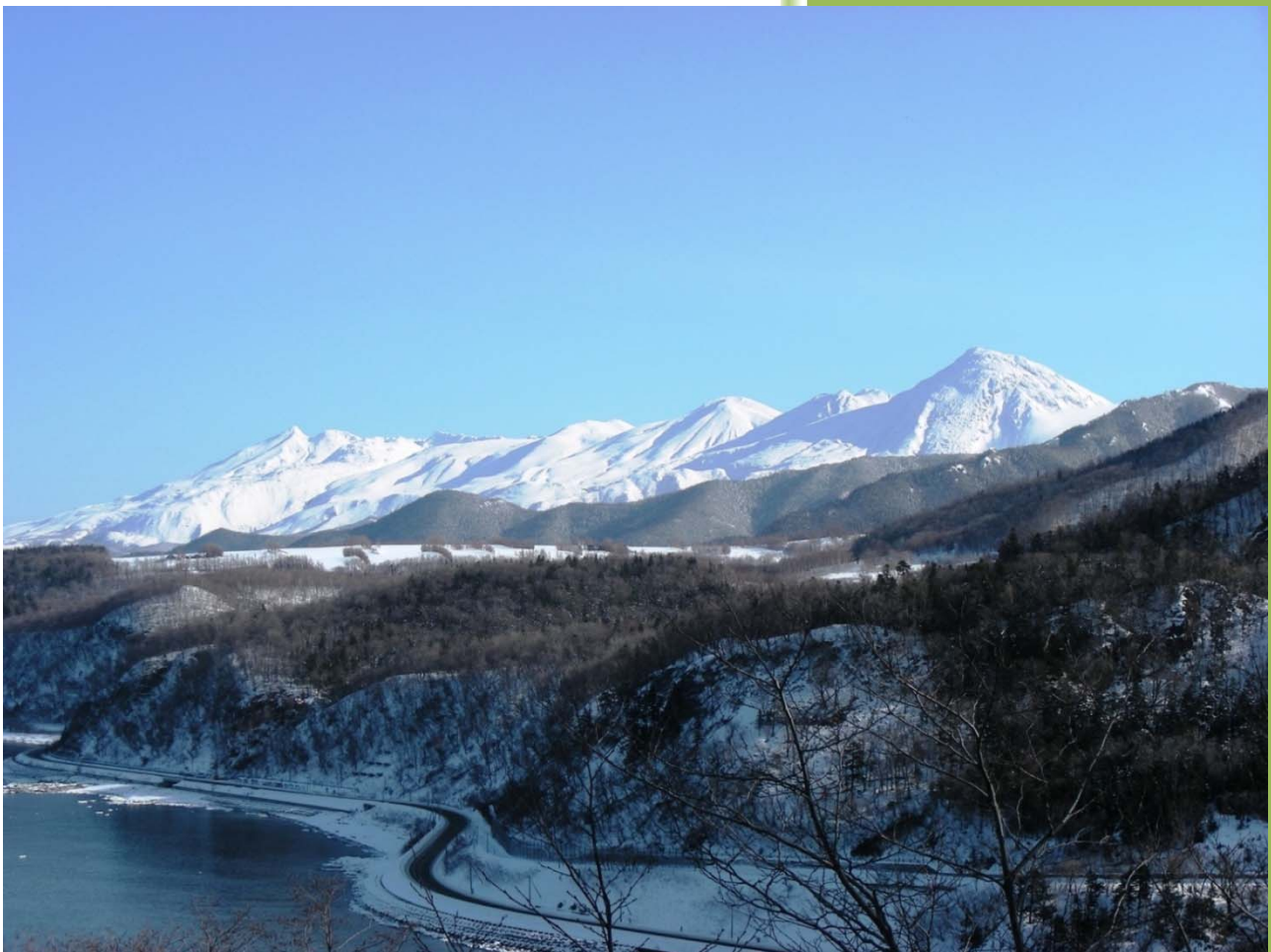




北の森林^も 国有林^り



今月のトピック

- ・北の国・森林づくり技術交流発表会
- ・治山・林道工事コンクール
- ・国有林モニター会議

春近し、知床連山

北海道森林管理局



国民の森林・国有林

平成27年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

局長賞(最優秀賞) 森林技術部門



機械力に応じた低コスト作業システム
構築の取り組みについて

後志森林管理署

局長賞(最優秀賞) 森林保全部門



治山ダム改良後のサケ科魚類の
生息状況について

網走南部森林管理署

局長賞(最優秀賞) 森林ふれあい部門



森林環境教育のニーズとマッチングを探る

胆振東部森林管理署

局長賞(最優秀賞) 高校部門



トドマツ人工林における巻き枯らし間伐の
効果についての調査・研究

北海道岩見沢農業高等学校

特別講演

道産材のポテンシャル
～人工林材の材質特性と利用技術～

(地独) 北海道立総合研究機構森林研究本部
林産試験場技術部 生産技術グループ

主査 大橋 義徳 氏



北海道森林管理局では、平成28年2月4日及び5日の2日間、森林・林業に関わる技術情報等の交換を図るため、「北の国・森林づくり技術交流発表会」を北海道大学学術交流会館で開催しました。

2日間に渡り、「森林技術」、「森林保全」、「森林ふれあい」及び、「高校」の各部門から計38課題の一般発表・ポスター発表がありました。

また、(研)森林総合研究所北海道支所、(地独)北海道立総合研究機構林業試験場、(研)森林総合研究所林木育種センター北海道育種場から3課題の特別発表に続き、(地独)北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場 主査 大橋義徳氏に特別講演を行っていただきました。

2日間で延べ約500名の来場者の中、発表では各地域で積み重ねてきた成果として、「機械力



開催にあたり挨拶する
黒川 北海道森林管理局長



表彰を受ける発表者



熱心に発表に聞き入る
会場の皆さん

奨励賞



林業用スマートフォンアプリ・
サービス等の試作開発

HPH2015
(北海道第一次産業ハッカソン2015)

奨励賞



有用広葉樹による新たな地域産業資源
創出への挑戦
～日本一の薬木生産地を目指して～

夕張市 建設農林課

奨励賞 高校部門



水辺のランドスケープモデル

北海道札幌旭丘高等学校

奨励賞 高校部門



ササの有効利用
～森林バイオマスとしてのササ資源の利用

北海道旭川農業高等学校



ポスター発表会場



UAV (ドローン)



発表会の様子

「森林管理署における UAV の活用について」と題し、UAV(通称「ドローン」と呼ばれる無人飛行機)本体、活用事例と実際の映像を紹介したコーナーもあり、来場者の目を引いていました。

また、ポスター発表会場では、各発表課題の要旨の他、ポスター発表のみの3課題も展示しました。

「高校」部門では北海道岩見沢農業高等学校、北海道旭丘高等学校、北海道旭川農業高等学校から、フレッシュかつ大人顔負けの発表があり、会場からは関心しきりの声が聞こえていました。

△改良後のサケ科魚類の生息状況」、「森林環境教育のニーズとマッチング」などの課題が発表され、会場からは各課題に対して多くの質問やアドバースがありました。

(技術普及課)

平成27年度 治山・林道工事コンクール 優れた施工技術を讃えて



林野庁長官賞「上十点沢治山工事」
(網走西部署)



林野庁長官賞「ポールシュベツ林道新設工事」
(宗谷署)

治山・林道工事コンクールは、前年度に発注した工事を対象として構造物の仕上がり状況、施行管理、安全管理、自然環境への配慮等を総合的に評価し、優れた工事を表彰するもので、施行技術の向上について関係者の意欲高揚を図るため毎年開催しています。



平成27年度治山・林道工事コンクール表彰式の模様

受賞者挨拶の株式会社五十嵐工業



3月1日、北海道森林管理局において平成27年度治山・林道工事コンクール表彰式を行いました。

北海道森林管理局管内の平成26年度に完成した治山工事60件、林道工事67件の審査対象工事について、林野庁及び北海道森林管理局において審査を行った結果、最優良工事として林野庁長官賞9件、優良工事として北海道森林管理局長賞10件の工事を表彰しました。

また、主任・監理技術北海道森林管理局長賞として表彰しました。

受賞工事は、現地に合った工種等の工夫、仕上りの良さなど品質確保、自然環境への配慮などに努めたことが高評価に繋がりました。

なお、林野庁長官賞の表彰式は2月23日に林野庁において行われました。

受賞工事

【林野庁長官賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	上川中部	十勝岳治山工事	株式会社橋本川島コーポレーション
	網走西部	上十点沢治山工事	松谷建設株式会社
	十勝西部	大全(2115・2116林班)治山工事	イチエイ山田建設株式会社
	渡島	駒ヶ岳(逆川Aの沢)地域防災対策総合治山事業	渡辺建設株式会社
林道	空知	初音林道(林業専用道)新設工事	及川産業株式会社
	宗谷	ポールシベツ林道(林業専用道)新設工事	株式会社中川阿部建設
	網走西部	八重里林道(林業専用道)新設工事	大同産業開発株式会社
	十勝西部	雄馬別林道(林業専用道)新設工事	栗林建設株式会社
	檜山	栄浜林道女男の沢支線改良工事	株式会社伊関組



北海道森林管理局長賞「法導寺の沢治山工事」
(空知署)

【北海道森林管理局長賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	空知	法導寺の沢治山工事	及川産業株式会社
	日高北部	宿主別治山工事	株式会社五十嵐工業
	上川南部	ボン双珠別治山工事	荒井建設株式会社
	網走南部	網走南部森林管理署むつが沢川外治山工事(むつが沢川)	興和建設株式会社
	東大雪	ユーニベツツ川治山工事	栗林建設株式会社
檜山	厚沢部地区災害関連緊急治山工事	工藤建設株式会社	
林道	日高南部	西の沢林道アイマペン線(林業専用道)新設工事	株式会社村田土建
	上川北部	2318・2319林班林道(林業専用道)新設工事	株式会社野田組
	網走南部	大東林道改良工事	水元建設株式会社
	後志	我妻の沢林道オロエンの沢支線(林業専用道)新設工事	藤信建設株式会社



北海道森林管理局長賞
「我妻の沢林道オロエンの沢支線新設工事」
(後志署)

みなさんの声を森林づくりへ

平成27年度国有林モニター会議



2月20日（土曜日）、北海道森林管理局大会議室において、平成27年度の国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニターは、国民の意見を把握し、国有林野の管理・経営に役立てるため、公募により全国各地の48名の方にお願ひしています。

このたび、モニター任期2年の締めくくりとして、国有林モニター会議を開催し、各地からモニター25名に参加いただき、北海道森林管理局や北海道の国有林などに対するご意見・要望などを発言いただきました。

主な意見・要望として、



・森林などに関心の無かった人たちの興味を引きつけるような話を情報発信して行ってほしい

・新しい世代の林業従事者を育て、林業が若い世代の活躍できる職業になつてほしい

・林業体験をできる場がないので、市民が気軽に林業にふれあえる場を積極的に作ってほしい

・これからの時代を担う若い人に森林や自然、木などへの意識を高めてもらえるように今後も協力していきたい

・北海道の開拓などに大きな役割を果たした国有林の歴史的資料をしっかりと体系的に保存してほしい



・木質バイオマス発電に対する森林管理局の考え方や採算について知りたいなど、様々な意見等をいただきました。



黒川局長からの奨励賞の授与

また、モニターの中には、北海道森林管理局が開催した「北の国・森林づくり技術交流発表会」で発表を行い奨励賞を受賞した方や、体育館等建築について地元自治体に木造化を提言していただいた方もおられ、国有林モニターを機に森林・林業についての意識が高まったとの意見も多く聞かれました。

今後、これらのご意見などを北海道森林管理局の業務運営に活かしてまいります。

（企画課）



モニターのみなさん、活発なご意見ありがとうございました。

「地域における民国連携への取組をスタート」

地域課題の解決に向けた取組

網走西部森林管理署

豊富な森林資源を背景に、かつて林業で栄えた遠軽地域ですが、林業の衰退とともに人口も減少しています。

このため、かつて盛んであった林業の再生を図ることが地域の振興に資するものと考えます。

特に、当地域の森林の7割強を占める国有林が民有林と協働した取組を行うことにより、その可能性はさらに高まると考えています。

しかしながら、これまで民有林は民有林で、国有林は国有林でそれぞれ取り組んでいることが多く、民有林と国有林が連携した取組はあまり進んでいない状況でした。

このため、地域の林業関係機関（北海道、地元自治体、森林組合、林業事業者等）と連携を図る体制の構築と情報の交

換・共有について、次に紹介する取組を始めることとしました。

①長年にわたり被害が発生していたカラマツハラアカハバチの食害状況調査に民有林と協働して国有林も取組むこととしました。

平成27年に、勉強会、予察調査実習を実施した上で、国有林での食害状

況調査を行い、そのデータと民有林のデータを集約し地域全体の食害情報の共有を図っています。



一貫作業システム現地検討会

②林業の再生を図る上で林業の低コスト化は重要な課題であることから、林業の低コスト化を図る手法の一つとして、当署において取り組んでいる「伐採から植栽までの一貫作業システム」について、現地検討会を開催し民有林関係者と情報交換を図っています。



QGIS 勉強会

④QGISを活用し民有林と国有林の双方の森林

③現在、地域林業の推進を図るための組織として、地域の林業関係機関で構成されている「林業推進協議会」と国有林が事務局となっている「森林・林業・木材産業活性化懇談会」の二つがあります。

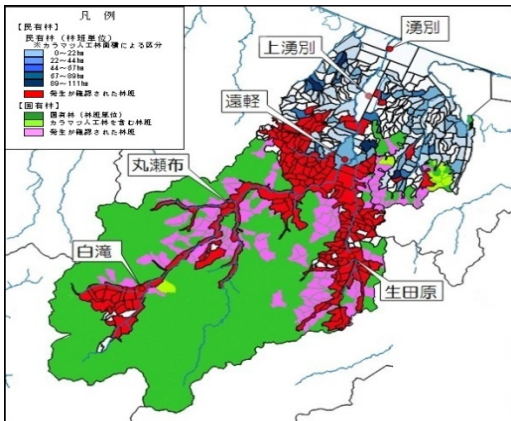
より一層の連携と情報交換の迅速化を図るため、平成28年度に両組織を一本化することで調整を進めています。

配置、路網等の「見える化」を推進するため、森林管理署を含め地域の林業関係機関が集まり勉強会を継続して実施し、その活用について検討していくこととしています。

⑤地域の林業関係機関の方から樹皮等から主要広葉樹を見分ける勉強会開催の要請があり、当署の若手職員を含め早期に実施する方向で検討を進めています。



地域での民国連携はスタートを歩み始めたところですが、以上のような取組を進める中で、培われた民有林関係者との信頼関係をベースとし、今後も地域の課題を把握しながら、署全体の取組として課題解決に向けて取り組んでいく考えです。



カラマツハラアカハバチ発生状況図



釧路湿原森林ふれあい推進センター

釧路と聞いて何をイメージされますか。

霧、サンマ、タンチョウ、映画「晩夏」・・・いろいろあると思いますが、当センターの名称になっている釧路湿原と答える人も多いのではないのでしょうか。

当センターの名称は。いかにも、釧路湿原をフィールドに活動している感じがします・・・。そのためでしょうか。

当センターには、釧路湿原に関する問い合わせがあるのですが・・・。

広大な、釧路湿原と釧路湿原国立公園ですが、この広い区域に国有林は存在しません。

つまり、釧路湿原には、当センターが活動する場所がないのです。

では、どこで活動しているのでしょうか。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、釧路市内に事務所を構え、国有林をフィールドに、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に

取り組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。

なかでも釧路湿原上流部の森林の自然再生と森林環境教育が主たる活動になっています。

釧路湿原では、過去の開発や森林伐採などによる土砂や栄養分の流入による湿原の乾燥化や周縁部の生態系の劣化がおきています。

この環境悪化を食い止めるため、平成15年に自然再生法に基づき釧路湿原自然再生協議会が設立されました。

当センターは同協議会に所属し、釧路湿原東部にあるシラルト口湖の上流部の雷別地区国有林で、気象害にあい笹原となつてしまった箇所を広葉樹の森林に再生する自然再生に取り組んでいます。また、森づくりのボランティア活動グループ「雷別(らいべつ)ドン

リ倶楽部」を立ち上げ、植樹、下草刈り等の保育作業を行い、市民のみなさんに、自然再生に参加してもらっています。



雷別ドングリ倶楽部の活動

森林環境教育では、平成18年度から継続して行っている標茶町立中茶安別(なかつちあんべつ)小中学校の学校林活動への協力や釧路市子ども遊学館、釧路市及び周辺のイベントに参加して、森林に行く機会の少ない子ども達に、木とふれあう機会を提供するとともに、木工工作等で木の持つ独特の温もり、肌触り、色、音、匂いを体感してもらい、木の良さをPRに努めて

います。樹木は生長するのに長い時間を要しますが、当センターの活動も樹木と同様に、じわじわと地域に浸透してきており、地域のみなさんから、「ふれあいセンターさん」と呼ばれ親しまれています。



中茶安別小中学校の学校林活動

なお、当センターでは、ホームページで、広報紙「飛鶴(ひかく)の森林(もり)から」の掲載や管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。随時更新しておりますので是非ご覧下さい。

こんにちは 森林官です!

檜山森林管理署
木古内森林事務所
地域統括森林官
(木古内・吉堀担当区)
窪田 秀幸



当森林事務所の所在地木古内町は、渡島半島南西部に位置しており、南部は津軽海峡に面し、北部の大半は森林地帯となっています。人口は約四千六百人、主な基幹産業は漁業・酪農などを中心とした一次産業で、これらを経済の柱としています。

歴史が古く、文化財や伝統行事が多く残る町です。その中でも、佐女川(さめがわ)神社の「寒中みそぎ祭」は、一八三一年から続く伝統の神事として、全国でも知られている有名なお祭です。例年1月13日から15日にかけて行われ、一年の豊漁豊作を祈願します。



寒中みそぎ祭

【写真提供：木古内町役場】

下帯一つの男たちが極寒の中、水を掛け合い清める姿は、見ている方も体が凍り付く思いです。

◆ ◆ ◆
町内の今年一番の話題は何といっても「北海道新幹線」の開業です。開業日は3月26日。停車駅としての木古内駅は、町木に指定している道南スギをふんだんに使用した暖かみのある駅舎に建て替えられ、また、特産品



道南スギを使用した道の駅

のPRや販売、観光情報の発信基地として、道の駅「みそぎの郷(さと)きこない」が、道南の観光の拠点となるべく新たに建てられました。この建物にもふんだんに道南スギが使われています。北海道の夢・希望を運

ぶ新幹線「はやぶさ」は「やて」。私個人としても、是非近いうちに乗ってみたいと思っています。



北海道新幹線

【写真提供：木古内町役場】

◆ ◆ ◆
さて、当森林事務所は、木古内町と知内町にまたがる約11,000haの国有林を管轄しており、そのほとんどが、保安林に指定されています。

林地の現況は、道南の特徴であるブナを中心とした天然林が6割を占め、残りはスギ、トドマツ、カラマツの人工林となっています。人工林の多くが間伐・主伐期を迎えており、ここ3年間で、立木販売で約21,000

m³を契約、製品生産事業では約15,000m³の素材(丸太)を生産しました。

また、伐採により更新面積も増え、昨年はコンテナ苗も使用し、8haを植栽しました。

植栽後は適切な保育管理を行い、後世に残せる立派な森林に育てていきたいと思っています。



コンテナ苗も植えています

◆ ◆ ◆
終わりになりますが、民有林の方々との繋がりが、関わりを積極的に持ち、多様なニーズを把握する中で国有林の持つ技術等を提供し、民・国連携して地域に貢献できるように、努めていきたいと思っています。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

【石狩森林管理署】
2月1日、千歳市立支笏湖小学校で今年度2回目となる森林教室を行いました。
今回は高知県南国市立奈路小学校の5・6年生と保護者などからなる交流団を交えての実施となりました。

千歳市立支笏湖小学校 で森林教室



【石狩森林管理署】
2月2日、江別市立野幌小学校では、低学年(1〜4年生児童)が、4日には高学年(5〜6年生児童)が、少人数のグループに分かれて野幌国有林において「冬の森林観察会」を行いました。

江別市立野幌小学校 で森林観察会

木によって形や大きさが違う「冬芽」がついているね。



がなくなった現在も「心の直行便」として交流活動を行っています。
森林教室では学校裏にある「支笏湖遊々の森」の中で冬芽や樹皮を観察したり、エゾシカやエゾユキウサギなどの動物の足跡を探したりと、スノーシューを履いて冬ならではの森を探検しました。

【空知森林管理署】
空知森林管理署では、子どもたちに森林に親しみ、その自然のすばらしさを感じ、その大切さを学んでもらう「森林ふれあい事業」に取り組んでおり、平成27年度は、その一環として岩見沢市立

岩見沢市立美流渡 小学校で森林教室

低学年は冬芽の観察を中心に、高学年は鳥の巣箱の清掃と観察を中心に活動を行い、雪上に残る動物の足跡観察など冬の森ならではのフィールド観察となりました。



スノーシューで楽しむ児童

森林観察会では父兄の皆さんからも多数の参加があり、にぎやかな活動となりました。



初めてのポケットコンパス

美流渡小学校4〜6年生のみなさんと四季を通じた森林教室を計5回のプログラムを用意して実施しています。
1月27日に第4回のプログラムとして「ひみつの宝の地図を持って探検しよう！」を実施しました。
学校のグラウンドに埋められている「ひみつの宝」のありかを示した地図に記された謎の文字列(測量成果)をたどり、測量機器を使って掘り当てようというものです。
子どもたちは初めて触れるポケットコンパスにドキドキしながら水平を調整し、目標となるポールの照準を合わせて、針が振れた場所の数値の読み取り方を学びました。

国有林間伐推進 優秀賞に コンクール 株式会社吉岡建設

2月22日、北海道森林管理局大会議室において、平成27年度国有林間伐推進コンクールで優秀賞に選ばれた株式会社吉岡建設への林野庁長官表彰の伝達式を行いました。



表彰を受ける株式会社吉岡建設

国有林間伐推進コンクールは、国有林野事業における間伐等の発注事業や立木販売において、優れた品質の森林整備を行うとともに、高い生産性等や作業システムの特徴や成果等の取組を競い、優秀な事例を決定し、その優秀な事例を公

表することにより、高効率かつ低コストな間伐等について民有林を含めた普及、定着及び推進に資することを目指す。

今年度のコンクールでは、林野庁の審査の結果、全国で最優秀賞1事例、優秀賞2事例が選ばれました。

表彰された株式会社吉岡建設は、伐採から植付まで一貫した作業において、高性能林業機械の有効な稼働による生産コストと造林コストの縮減に取り組んだ点が高く評価されました。
(資源活用第二課)



株式会社吉岡建設業務部長による事例の紹介

木育ひろば inチ・カ・ホ

1月23日、24日の2日間、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)で「木育ひろばinチ・カ・ホ」を開催しました。

これは北海道、北海道森林管理局、公益社団法人北海道森と緑の会、北海道林業・木材産業対策協議会の主催により、年間を通して開催する「北海道森づくりフェスタ2016」の最初のイベントで、2日間で延べ約3,400名の来場がありました。

会場には木のおもちゃで遊べる「木育ひろば」、木工クラフトを楽しめる「木育教室」、北海道の木を使った製品に触れることができる「地材地消ブース」を中心に、木や森に関する様々なブースが並びました。

(技術普及課)



北海道の木を使った「地材地消ブース」

北海道森林管理局は、広大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに答えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり!スクエア」「イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。



行事・ イベント情報

3月15日(火曜日)
平成27年度
地域管理経営計画等
に関する懇談会
(北海道森林管理局大会議室)



広報「北の森林 国有林」3月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194